

伝える・遺す・語り合う

災害の諸相をめぐって

東アジアの新たな協働を考える III

グローバル化が進む現代社会では、大災害の発生は被災国のみならず、国境を超えた問題として大きな影響をもたらすようになっている。自然災害が相次ぐ東アジアでは近隣諸国との緊密な連携が不可欠であり、災害復興制度研究所は2016年1月から「東アジアの新たな協働を考える」をテーマにした国際シンポジウムを開催してきた。第3弾となる今回は、災害をめぐる経験をどのように伝え、その記憶を未来に教訓として遺していくのか、さらに災害からの「復興知」をいかにして共有し継承していくのか、災害の諸相をめぐって復興のあり方を考察する。

主催 関西学院大学 災害復興制度研究所

7月13日 木 13:30~17:00

会場: 関西学院大学図書館ホール
(兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155)

【プログラム】

- 開会挨拶 長岡 徹 (関西学院大学災害復興制度研究所 所長)
- 趣旨説明 野呂 雅之 (関西学院大学災害復興制度研究所 主任研究員・教授)

事前申込要
入場無料

13:50 ~14:30	報告① 「中国唐山大地震の歴史と記憶」 郭 連友(北京外国語大学北京日本学研究中心長・教授)
14:30 ~15:10	報告② 「阪神・淡路大震災と災害報道」 山中 茂樹(関西学院大学災害復興制度研究所 顧問)
<小憩>	
15:20 ~15:50	報告③ 「中国における関東大震災の報道をめぐって」 王 鑫(北京大学医学部 講師)
15:50 ~16:20	報告④ 「震災後における少数民族文化の保護」 張 慧(北京国際関係学院 准教授)
16:20 ~17:00	総括セッション 山 泰幸(関西学院大学災害復興制度研究所 副所長)

【申し込み方法】参加ご希望の方は、下記宛にお申込み下さい。(入場無料)

関西学院大学災害復興制度研究所

TEL 0798-54-6996

FAX 0798-54-6997

URL <http://www.fukkou.net/>

Email kgu_fukko2005@fukkou.net



